

【事業の是非について】

・事業に反対の立場です。

(前提条件)

- 事業者の考え方、行政的なプロセス、現行法律など、これまでの経緯をよく精査する必要があります。
- また、県において、再生エネルギーのゾーニング条例の検討が進められていますが、その状況も見ながら、市として適切な方向性を打ち出していく必要があると認識しています。

(現段階の立場)

- 反対という立場です。
- 10月に、地元の方に案内いただき、現場を見てきました。早朝、雲一つない快晴の中、展望台から見渡せる広大な南八甲田山ろくの、圧倒的な大自然景観に圧倒されました。



- 十和田湖古道という視点での反対意見、バードストライクを懸念しての反対意見、様々な立場での意見があることは報道等で承知しています。
- 私は、十和田湖・奥入瀬を、世界から選ばれる観光地にしたいと考えています。
- 単に美しい景色を見る観光から、自然を理解するアカデミックな観光に広げ、世界中から自然が好きな人が集まる場所にしていきたい。
- 十和田湖・奥入瀬エリアの私が掲げる将来ビジョン、理念の下に照らし、風力発電は相応しくないという認識です。

(再生エネルギーについて)

- 再生エネルギーの確保は、日本にとって重要な課題です。基礎自治体である十和田市がこれにどう貢献できるかという視点は重要です。
- 私は、単に風力発電に反対するだけで良いとは思っていません。
- 十和田ならではの、十和田に合った再生エネルギーへの取り組みを進めるべきで、その方向性をビジョンとして策定していきたいと考えています。
- 十和田湖では、昭和18年から、水力発電が行われています。先人たちが隧道を掘り、それが現在も水力発電として稼働しています。
- また、十和田市は畜産業が盛んだということにも着目し、バイオマス発電を推進できないかなども議論していくテーマだと認識しています。
- 再生エネルギーは、そういう地域の文化や歴史、産業構造等の背景を踏まえて考えるべき問題です。
- いずれにしても、再生エネルギー問題について、十和田がどう貢献できるかということについて、十和田モデルの方向性を検討していきたいと思えます。

(その他)

- 市民からのヒアリングする場を設けたり、アンケートを実施するなどにはすぐにできる有効な手段と思います。
- また、専門家や有識者と呼ばれる立場の方々から、第三者的な意見を聞くことも有効と思います。
- 反対ありき、賛成ありきではなく、事実を一つずつ精査しながら、将来的な十和田市のビジョンに照らした政治判断が必要です。